

改革フォーラム行政視察 報告書

日 程：令和2年1月21（火）～23日（木）
視察地：静岡県三島市、神奈川県相模原市、藤沢市

1月21日（火） 三島市（午後1時～3時）

視察場所 三島市役所

視察内容 「スマートウェルネスシティみしま」について

1月22日（水） 相模原市（午後1時15分～2時45分）

視察場所 藤野まちづくりセンター

視察内容 「地域通貨事業」について

1月23日（木） 藤沢市（午前10時～12時）

視察場所 リサイクルプラザ藤沢

視察内容 エネルギーの地産地消について

再生可能エネルギー（ごみ焼却発電）について

三島市の取組み ～スマートウエルネスみしま～

スマート 賢く、自然に、楽しく

ウエルネス 健やかで幸せな状態

三島市が挑戦する「健幸都市」づくり

○スマートウエルネスみしまアクションプランの策定

人もまちも産業までも健康で幸せなまちづくりを目指すために市役所内にプロジェクトチームを立ち上げ事業提案

→横串を刺した事業展開こそ健幸都市創造に不可欠

健康セクションだけでなく全庁的に20課40名の若手職員で協議を重ねる

○スマートウエルネスみしまの取組み3つのキーワード

1、エビデンス ～科学的根拠に基づく健康づくり～

★健幸運動教室の実施

- ・エビデンスに基づくプログラムを導入 ⇒内容と結果を広報等で周知し参加者だけに
- ・継続支援で運動を習慣化 とどまらない仕掛けづくり

★医療費分析

- ・国立保健医療科学院と連携
- ・県と連携した「小学校区健康課題」の分析

2、スマート ～無意識に、自然と健幸づくり～

★健幸マイレージの実施

- ・日々の健康づくり、イベント参加でポイントがたまる
- ・学校応援コース、幼保応援コース→ランキングに応じPTAに助成
- ・抽選で地場産野菜等多種の賞品プレゼント

★歩きやすい道づくりの指針を示し、安全に歩いて暮らせるまちを目指す。

- ・歩車共存道

★回遊性を持たせる仕掛けづくり

- ・イベントではスタンプラリーで各会場をつなげ自然に歩いてしまう仕掛けづくり

★ノルディックウォーキングの普及（全身運動効果の高いエクササイズとして注目されている）

- ・ガイドブックの作成
- ・講座の開講

★みしま健幸大学

- ・街に出る楽しみ、きっかけの提供（食の健幸、心の健幸、健康スポーツ）

★成果向上事業「脂肪燃えるんピック」

- ・無関心層（若者）をターゲットに特典にインパクトをだし結果にコミット（減った脂肪と同量の牛肉、地場産野菜プレゼント）

3、コラボレーション～「+」から「×」へ～

★出張「健幸鑑定団」

- ・不特定多数が集う店舗等にブース展開
- ・健康チェック、健診 PR、健康相談を実施

★ウォーキング・プラスワン

- ・民間とのコラボでイベント実施
- ・歩く楽しみ、付加価値を提案

★雄大グループとの協働事業

- ・健診受診率向上×来店のインセンティブ
受診結果を持っていくと1000円分の金券プレゼント

*雄大グループ 静岡県東部中心
にカラオケ、ゴルフ練習場を展開

★健康経営支援

- ・事業所向けに健康づくりのサポート⇒ 健康経営のメリット（生産性向上、健康保険料の減額、企業のイメージアップ）

★商工会議所と協働による健康経営支援⇒企業に即した健康プログラムを提案

★まちなか健幸拠点「みしま健幸塾」の開設⇒目指すは道の延長にある健康づくり

★タニタとの協働事業（みしまタニタ健康クラブ）

- ・活動に応じたポイント制度
- ・「からだカルテ」の閲覧
- ・体組成や歩数データ記録をレポートとして郵送
- ・会員限定セミナー開催
- ・健康情報発信拠点⇒楽しく健康的にまち歩き
- ・タニタ監修ヘルシーメニュー⇒美味しく健康的にまち歩き

○スマートウエルネスみしまの成果

医療費抑制効果

県内トップクラスの介護認定率の低さを維持

○めざすところ

健康寿命の延伸
幸福度の向上
地域経済の活性化

住んでいるだけで、生活しているだけで
健康で幸せになれる街

相模原市 藤野地区の取組み ～地域通貨事業について～

○藤野地区とは（背景）

相模原市の山あいにある藤野地区。野外に大きな彫刻がおよそ30点展示されるなどアートのまちとして知られ全国各地から250人以上の芸術家が移り住んでいる。

そんな藤野地区では住民同士のつながりを深めようと地域をあげて様々な取組みがすすめられている。

今では芸術家以外の人たちも多く移り住んでいる。

○藤野地区で流通している地域通貨「萬」（よろづ）（経緯）

藤野地区は、もともと地域活動が盛んなところで色々な住民グループが様々な活動を展開している。

その一つに「トランジション藤野」がある。

地域が核となった持続可能な社会を目指す住民たちの集まりでこの「トランジション藤野」の部会の一つが2009年11月に「藤野地域通貨 よろづ屋」を参加者15人でスタートさせた。

中心となったのは「トランジション藤野」のコアメンバーである池辺 潤一さん。

○池辺 潤一さんにお話を伺う。

「地域通貨といっても紙幣は発行されず通帳方式。実際のお金ではないので気兼ねなく使える。マイナスからの出発。自分の得意分野でお返しをする、お互い様で助けあっていく『つながるための道具』。

地域通貨は円よりも豊かな気持ちになれる生活を送るためのもの。お互い様で助け合っていくので人の心を動かすもの。」

○現状

★参加登録者 350人以上 （旧藤野町民 75%、旧相模湖町 5%、他は近隣の県外）

★得意分野の提供が起業につながることもある

★地区の店補も数店参加

○具体的なやり取り 値段は双方で話し合ってから決める

- ・自分自身で育てた野菜、ケーキやクッキーを焼いた、電球の取り替え
- ・物々交換的なこともあり（通帳を介して）

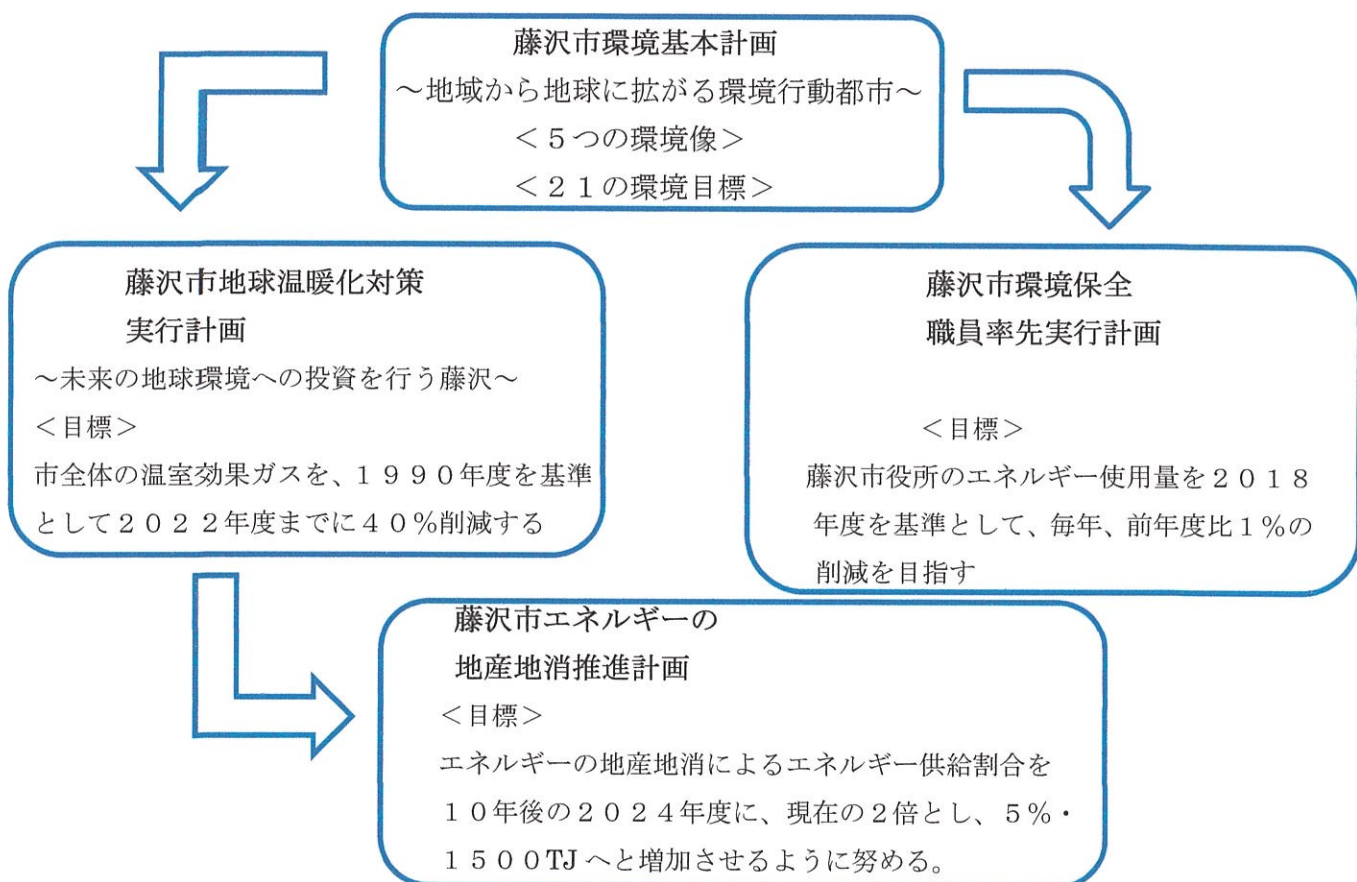
品名	数量の記載	プラス	マイナス	備考	合計
オリーブ					
オリーブ	2000				2000
オリーブ	2000				4000
オリーブ					
オリーブ	2000				6000
オリーブ					
オリーブ	2000				8000
オリーブ					
オリーブ	2000				10000
オリーブ					
オリーブ	2000				12000
オリーブ					
オリーブ	2000				14000
オリーブ					
オリーブ	2000				16000
オリーブ					
オリーブ	2000				18000
オリーブ					
オリーブ	2000				20000
オリーブ					
オリーブ	2000				22000
オリーブ					
オリーブ	2000				24000
オリーブ					
オリーブ	2000				26000
オリーブ					
オリーブ	2000				28000
オリーブ					
オリーブ	2000				30000
オリーブ					
オリーブ	2000				32000
オリーブ					
オリーブ	2000				34000
オリーブ					
オリーブ	2000				36000
オリーブ					
オリーブ	2000				38000
オリーブ					
オリーブ	2000				40000
オリーブ					
オリーブ	2000				42000
オリーブ					
オリーブ	2000				44000
オリーブ					
オリーブ	2000				46000
オリーブ					
オリーブ	2000				48000
オリーブ					
オリーブ	2000				50000
オリーブ					
オリーブ	2000				52000
オリーブ					
オリーブ	2000				54000
オリーブ					
オリーブ	2000				56000
オリーブ					
オリーブ	2000				58000
オリーブ					
オリーブ	2000				60000
オリーブ					
オリーブ	2000				62000
オリーブ					
オリーブ	2000				64000
オリーブ					
オリーブ	2000				66000
オリーブ					
オリーブ	2000				68000
オリーブ					
オリーブ	2000				70000
オリーブ					
オリーブ	2000				72000
オリーブ					
オリーブ	2000				74000
オリーブ					
オリーブ	2000				76000
オリーブ					
オリーブ	2000				78000
オリーブ					
オリーブ	2000				80000
オリーブ					
オリーブ	2000				82000
オリーブ					
オリーブ	2000				84000
オリーブ					
オリーブ	2000				86000
オリーブ					
オリーブ	2000				88000
オリーブ					
オリーブ	2000				90000
オリーブ					
オリーブ	2000				92000
オリーブ					
オリーブ	2000				94000
オリーブ					
オリーブ	2000				96000
オリーブ					
オリーブ	2000				98000
オリーブ					
オリーブ	2000				100000



藤沢市の取組み～エネルギーの地産地消について～

○藤沢市地球温暖化対策実行計画

体系図



* 10億円が環境保全費

* 藤沢市における温室効果ガス排出量は現在24.6%、2022年度までにあと16%削減

○藤沢市のエネルギー地産地消推進計画について

★エネルギー供給体制の諸課題と課題解決のために

課題

- ・エネルギー消費に伴い発生する、温室効果ガスによる、地球温暖化など環境への影響
- ・災害時におけるエネルギー供給体制の脆弱性

市民が安心して、また、環境に優しい形でエネルギーを使えるようにしていくため発電装置や熱供給設備（供給）を、消費場所（需要）の近くに分散配置して、需要と供給をマッチングさせる分散型のエネルギー利用、即ち、{エネルギーの地産地消}が必要となっている。

○藤沢市エネルギーの地産地消推進計画

計画期間 2015年度から2024年度までの10年間

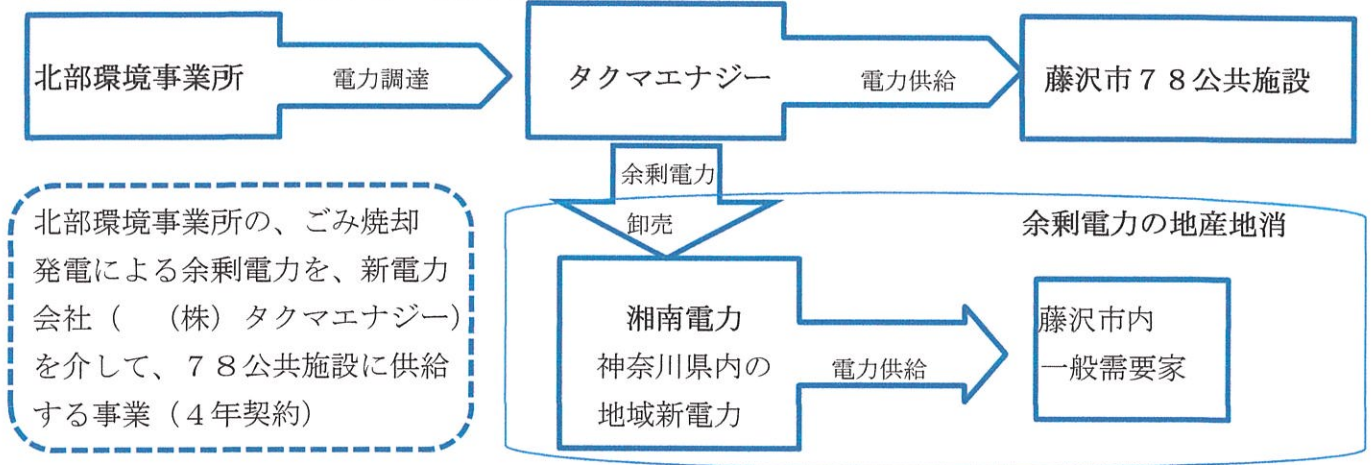
★5つの重点プロジェクト

- 1、太陽光発電システム導入による地産地消プロジェクト
- 2、燃料電池の導入拡大プロジェクト
- 3、電力・熱のスマートグリッド街区のモデル的整備プロジェクト
- 4、新電力活用による電力の地産地消プロジェクト
- 5、市民主体型エネルギーの地産地消の仕組みづくりプロジェクト

○ごみ焼却発電による再生可能エネルギー促進と地産地消

★ごみ焼却発電による再生可能エネルギー促進

北部環境事業所余剰電力地産地消事業



*56%の電力を公共施設に供給

★事業概要

- ・**財政効果** 2018年度（平成30年度）
115,193千円 / 年(旧一般電気事業者と通常に契約した場合との比較による)
(売電による増収：13,942千円 / 買電による削減：101,250千円)
- ・**地球温暖化対策**
余った電力は、地域新電力会社（湘南電力）を通じて、藤沢市内の一般需要家に供給
- ・**環境教育**
展示ブースの設置。市内小中学校に、ポスターを配布
- ・**環境啓発**
BMW スタジアム平塚で、チラシやうちわを配布

<考察>

❖三島市の取組み スマートウェルネスみしま

・若年層を取り込むために、インパクトのあるイベントを企画したり、民間事業所（飲食店やカフェ）

とコラボしたりと健康を意識するように働きかけている。加須市でも必要と感じる・

・健康マイレージ参加者数、加須市500人～600人、三島市2000人（人口規模ほぼ同じ）ポイント加算の項目やポイント達成時の賞品に魅力が必要と考える。

・健康事業全般の周知は口コミが一番というスタンスで三島市は取組み、伝道師的存在の市民を養成。

加須市も取り組むことが望ましい。

❖相模原市 藤野地区の取組み 地域通貨事業について

・実際のお金ではないから気兼ねなくやり取りできる、人と人が繋がるための道具。お互い様の気持ちで行政が介在せず、地域で育てていくやり方に感銘を受けた。

・多くの方が移住し、移住者の方が中心になって輪を広げている。自分たちの地域を自分たちで住みよくしようと努力していることにパワーを感じ「自分たちに何ができるか」を考え行動を起こすことの素晴らしさを実感する。

❖藤沢市の取組み エネルギーの地産地消について

・市民が安心して、また、環境に優しい形でエネルギーを使えるようにしていくために発電装置や熱供給設備（供給）を消費場所（需要）の近くに分散配置してエネルギーの地産地消を目指し、実践している。加須市も将来的には目指すべきと考える。

・ごみ焼却発電により、78の公共施設に電力を供給し、余剰電力は新電力会社を通じて一般家庭に売電している。今後、加須市の焼却施設を見直す際には大いに参考にすべきである。